令和6年度町民海外研修事業及び
サンモリッツ姉妹都市提携60周年記念公式訪問

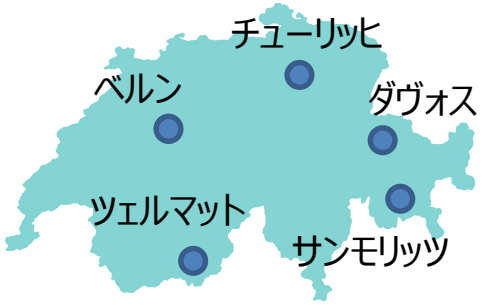
倶知安町総合政策課広報広聴係

～事業の概要～

●倶知安町とスイス・サンモリッツは1964年に日本・スイスの両国間では初となる姉妹都市提携を締結しており、今年提携60周年を迎えました。さらなる交流事業の推進と、今後も連携・協力し合うことを改めて確認するために、今回、10年ぶりとなる公式訪問を実施しました。
また、サンモリッツをはじめとするスイス国内の国際リゾートから、本町が国際リゾートを目指す上で求められる世界水準の滞在型・通年型リゾートの形成につながる取り組み等を学ぶために町民海外研修事業を併せて実施しました。

■日程

2024年7月8日（月）
～16日（火）の9日間
※スイス滞在は9日～15日の7日間



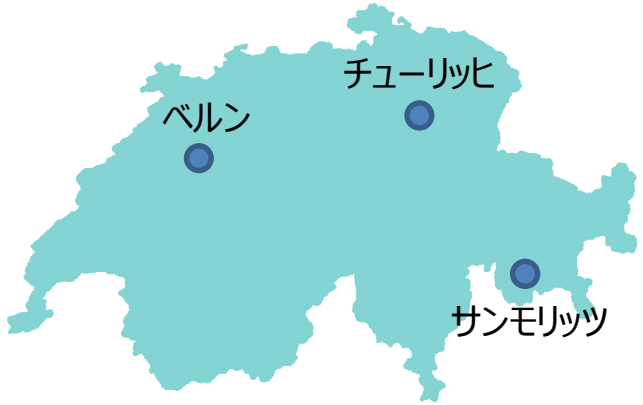
■訪問団（14名）

文字町長、作井議長、西村観光係長、
辺見広報広聴係長　ほか町民10名
※所属は会議所・観光協会・NPBなど

日付	出発地	目的地
7/8	倶知安町（8時30分発）	成田市
7/9	成田市	サンモリッツ
7/10～11	―	サンモリッツ
7/12	サンモリッツ	ツェルマット
7/13	―	ツェルマット
7/14	ツェルマット	ダヴォス
7/15	ダヴォス	―
7/16	―	倶知安町（18時着）

～スイス連邦・サンモリッツ～

■スイス連邦



硬貨や切手には
「Helvetia」の文字が

・首都：ベルン

・面積：41,290㎢（九州より少し大きいくらい）

・人口：865万5,000人（大阪府と同じくらい）

・公用語：ドイツ語・フランス語・イタリア語・ロマンシュ語の4種

※スイス連邦の正式名称は4種の公用語のほかにラテン語名も存在します（ヘルヴェティア共和国）

・時差：8時間（サマータイムは7時間）

■サンモリッツ（ST.Moritz）

・面積：28.69㎢（倶知安町：261.34㎢）

・人口：5,067人（倶知安町：14,663人※R6.6末時点）

スイス南東部のグラウビュンデン州にあり、標高は1,822mで羊蹄山（1,898m）とほぼ同じです。

言語はドイツ語とロマンシュ語で、1928年と48年に二度の冬季五輪を開催しており、

ウインタースポーツのメッカとして人気の観光地となっています。

～サンモリッツとの姉妹都市提携～

■「東洋のサンモリッツ」

オーストリアの軍人レルヒ中佐が1912年に北海道の冬の景観を「東洋のサンモリッツ」と表現。

その後、1928年に秩父宮様がスキー旅行でニセコエリアを訪れた際には、「『極東のサンモリッツ』に最後の思い出」と当時の新聞記事に掲載されたことから、「倶知安＝東洋のサンモリッツ」とのイメージが定着。

極東の
サンモリッツに
最後の御思出
御滞在は三日間

■はじまりはハンカチ

1964年にインスブルック五輪の視察で欧州を訪問した当時の高橋清吉町長は、サンモリッツをアポなしで訪問し、フリッシュ・サルトモ市長との対談を実現。その際に、姉妹都市提携の話しを持ち掛け、快諾を得ると、その証拠として、視察に同行していた新田知一氏の持つハンカチに、市長のサインと公印が押印されました。

帰国後の1964年3月19日、議会で姉妹都市提携が決議され、国内初となるスイスの都市との姉妹都市提携が実現しました。

～サンモリッツとの姉妹都市提携～

■公式訪問の歴史

年	内容	首長
1986（昭和61）年	**サンモリッツから初の公式訪問（9名）**	コラド・ジョバノーリ
1988（昭和63）年	**倶知安から初の公式訪問（26名）**	宮下雄一郎
1990（平成2）年	倶知安から2回目の公式訪問（21名）	宮下雄一郎
1991（平成3）年	サンモリッツから2回目の公式訪問（15名）	コラド・ジョバノーリ
1999（平成11）年	サンモリッツから3回目の公式訪問（4名） ※通信員制度の充実など4点の 交流事業に合意し調印	ペーター・バルトウ
2000（平成12）年	倶知安から3回目の公式訪問（23名）	伊藤弘
2014（平成26）年	サンモリッツから4回目の公式訪問（6名） ※交流事業の推進などを記した 「50周年共同宣言」に署名	シギ・アスプリオン
	倶知安から4回目の公式訪問（23名）	福島世二
2024（令和6）年	**倶知安から5回目の公式訪問（14名） ※交流事業の推進などを記した 「60周年共同宣言」に署名**	文字一志

～サンモリッツとの姉妹都市提携～

■町民交流の歴史

年	内容
1989（平成元）年	羊蹄山リレーマラソンにサンモリッツの選手が初参加
1991（平成3）年	スイス・シュタフルマラソンに倶知安の選手が初参加
1996（平成8）年	**青少年交流事業がスタート 倶知安の中高生2名をサンモリッツへ初めて派遣**
1997（平成9）年	サンモリッツの留学生2名を初めて受け入れ
2000（平成12）年	サンモリッツからスキーインストラクターを初めて受け入れ
2001（平成13）年	倶知安のスキーインストラクター2名を初めて派遣
2022（令和4）年	コロナ禍で中止していた青少年交流事業の代替事業として 両都市の中高生による初のオンライン交流会を実施
2023（令和5）年	青少年交流事業が再開 倶知安の高校生3名をサンモリッツへ派遣

★青少年交流事業の参加者数

倶知安⇒サンモリッツ　30名（12回）、サンモリッツ⇒倶知安　18名（8回）

～姉妹都市提携60周年記念公式訪問～（7/10）

■ウェルカムパーティー

会場：ホテル レーヌ・ビクトリア

★アルプホルン音楽隊による歓迎の演奏

★イエニー市長からの歓迎のあいさつ

遠く日本からスイスへ、長い旅をしていただき感謝します。

私たちは、60年続いたこの交流を、どのように続けていくのかが重要だと感じています。

両都市が、美しい面だけではなく、それぞれが抱える課題なども共有し、一緒に話し合い、解決できる関係をこの先も築いていきたいと思います。

★ジュリア氏（サンモリッツ観光局）からの観光に関するお話し

※サンモリッツ～ティラノ（イタリア）を結ぶ「ベルニナ・エクスプレス」と箱根町の「箱根登山鉄道」が姉妹鉄道であることが縁で、サンモリッツと友好都市提携をする神奈川県箱根町も訪問しており、7月10日は、倶知安町とともにサンモリッツの皆さんから歓迎を受けました

～姉妹都市提携60周年記念公式訪問～（7/10）

■市庁舎訪問

★ウェルカムパーティー終了後、参加者が自由に意見交換をするなどして交流

★姉妹都市通信員スーズィーさんの案内でサンモリッツ市内を見学

サンモリッツ市庁舎やサンモリッツ観光局などを訪問

古くは高い効能の鉱泉が広く知られ、保養地として栄えたサンモリッツ。観光客は富裕層が多く、町にも高級ブランド店が数多くありました。そんな中でも、古くからある建物や景観は変わらず維持されており、その歴史ある街並みを歩きながら見学しました。

また、市庁舎前の広場には、倶知安とサンモリッツの姉妹都市提携を記すプレートが設置され、庁舎には日本国旗と倶知安町旗が掲げられており、両都市のつながりの強さを感じさせてくれました。

市長室の入り口には、姉妹都市提携45周年の際にサンモリッツへ贈った「徳丸滋氏の絵画」が飾られていました。

～姉妹都市提携60周年記念公式訪問～（7/10）

サンモリッツの美しい街並み

それを維持するため、まちづくりにもさまざまな工夫がされていました。

駅に隣接する立体駐車場

湖側から立体駐車場がある場所を見ると、芝で隠されて景観を損なわないように工夫されています。

駐車場の自動ドアにもシンボルマークが描かれているなど、多くの場所でサンモリッツのロゴや太陽のマークを見掛けました。

～姉妹都市提携60周年記念公式訪問～（7/10）

町の中には多くのごみ箱が設置されており、ポイ捨てなどのごみは見当たらず、きれいな町が維持されています。

犬のフンを捨てるごみ箱も至るところに設置されており、フンを入れるごみ袋も一緒に設置されているため、誰でも処理することが可能です。

美しい湖や雄大な山々などの自然景観はもちろん、町やお店の前などは、色鮮やかな花壇や緑の木々が彩っており、またベンチも数多く設置されているため、つい歩きたくなるような街並みが続いていました。

湖畔をウォーキング・ジョギングする人たちも数多く見受けられました。

■夕食会

会場：ケンピンスキー・グランドホテル

★ホテルの前庭でサンモリッツオーケストラによる演奏

★サンモリッツ・箱根・倶知安合同の夕食会で参加者同士交流

～姉妹都市提携60周年記念公式訪問～（7/11）

■ピッツネイル登頂

★冬季五輪の会場となっているサンモリッツ

国際的なスキーリゾートのサンモリッツでは、1928年と48年に二度の冬季五輪を開催しており、まちの中には五輪開催を紹介する石碑や看板が設置されています。

倶知安と同じく冬の観光のイメージが強いサンモリッツかもしれませんが、季節ごとの観光客数では夏のほうが多いそうです。（夏約14万人、冬約11万人）

今回見学したピッツネイル（3,057㍍）もマウンテンバイクやハイキングを楽しむ人が多く訪れる観光地であり、フニクラ（ケーブルカー）とロープウェイを乗り継いで山頂まで行くと壮大な景色が目の前に広がります。スイスでは気候変動の影響で、人工雪を使いスキー場整備を行っていますが、ここサンモリッツでも人口の池（湖）を作り、そこに水を貯めてスキーシーズンに備えており、新しい人工池の建設も進められていました。

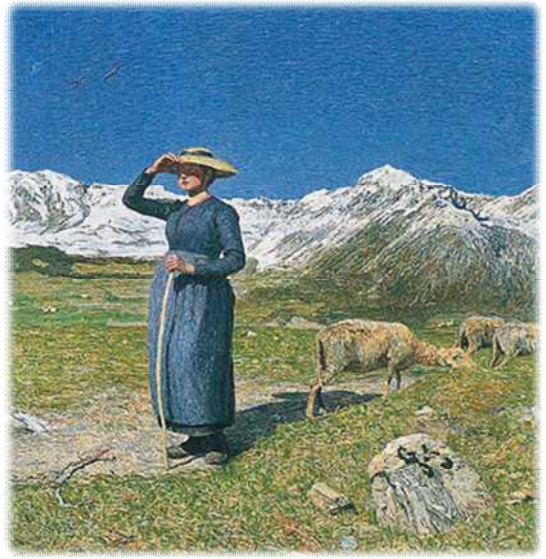
～姉妹都市提携60周年記念公式訪問～（7/11）

■記念セレモニー

会場：バドラッツパレスホテル

★姉妹都市提携60周年記念品の交換

サンモリッツからは市内に美術館がある画家・ジョヴァンニ・セガンティーニの代表作「『アルプスの真昼』の絵画（レプリカ）」を、倶知安からは地元産のカエデを使用し、両都市の町章やロゴをプリントした「オリジナルのスキー板」を贈り、60周年の記念品の交換を行いました。

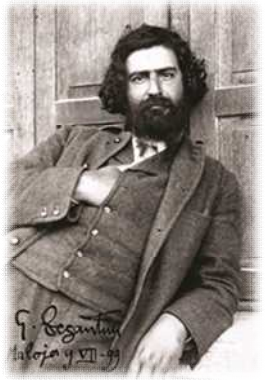


★アルプスの真昼（1891）

アルプスの高原風景をセガンティーニ独自の色彩分割技法で描いている。

中央にいる人のモデルは、セガンティーニ家で子守・家事手伝いなどをしていたバーバ・ウーフェルという女性です。

今回寄贈されたのはレプリカで、本物はサンモリッツのセガンティーニ美術館に収蔵されています。



★スキー板

町内のスキーメーカーで製作した地元産のスキー板。

今回の訪問を記念して、町長のサインと当日の日付を板に記しました。

～姉妹都市提携60周年記念公式訪問～（7/11）

■記念セレモニー

会場：バドラッツパレスホテル

★姉妹都市提携60周年記念の共同宣言に調印

姉妹都市提携60周年を記念して、今後の交流事業の一層の推進や、日本・スイス両国の友好関係の発展、学生交流などの住民同士のさらなる積極的な交流を願い、60周年記念の共同宣言へ両都市の首長による調印が行われました。

～倶知安・サンモリッツ姉妹都市提携60周年共同宣言～

倶知安とサンモリッツは、日本とスイス両国における最初の姉妹都市として、1964年の姉妹都市提携の締結からこれまで、お互いの文化や慣習を尊重し合い、さまざまな面で交流を続け、両国の友好関係の発展のために寄与してきました。

これまで、長きに渡り交流の歩みをつないできた、両都市の先人たちに敬意を表するとともに、これから先の未来へと、友好の絆をつないでいきたいと思います。

姉妹都市提携60周年を迎えるにあたり、ここサンモリッツの地で両都市の住民が共にお祝いできたことに感謝するとともに、さらなる交流事業の推進を図るために今後も連携・協力し合うことを改めて確認し、姉妹都市提携60周年の記念としてここに調印します。

1 両都市は、日本・スイス間の最初の姉妹都市として、両国の友好に寄与することを目指します。

2 両都市は、これまでの学生交流をさらに深化させ、次代を担う国際的な人材の育成を共に目指します。

3 両都市は、互いの文化や慣習を尊重し、相互理解を深めるため、住民同士の積極的な交流を促します。

～姉妹都市提携60周年記念公式訪問～（2日間の記録）

～町民海外研修事業・ツェルマット～（7/13）

■環境に配慮したまちづくり

ガソリン車の乗り入れを禁止するツェルマットへは、バスや車で町の中に入ることができません。そのため、ほとんどの人が手前のテーシュという駅で鉄道に乗り換え、ツェルマットへ向かいます。

ガソリン車の乗り入れを禁止したのは、最近ではなく、自動車が普及し始めた約70年も前の時代から禁止されています。そのため、現在のツェルマットでの主な移動手段は電気自動車（タクシー・バス）で、一部の高級ホテルでは馬車も利用されています。

ツェルマットは、マッターホルンに代表される山岳リゾートであるため、登山バッグを担いだ観光客が多く見られ、サンモリッツとはまた違った層をターゲットにしていると実感します。ツェルマットでも建物の色や素材が決められており、歴史ある建物も新しい建物も町に溶け込んでおり、一体感のある街並みと感じました。

～町民海外研修事業・ツェルマット～（7/13）

ごみは「普通ごみ」・「生ゴミ」・「再生紙」・「ビン・缶」・「プラスチック容器」など、細かく分別され、町の中にある公園のコートの素材はペットボトルをリサイクルして作られていました。

再生可能エネルギーの使用割合が高く、その多くは水力発電となりますが、ホテルなどから出た生ゴミと家畜のフンから発電するバイオガスプラントもあり、地域内で出た廃棄物を域内のエネルギーとして再利用する仕組みができていました。

～町民海外研修事業・ツェルマット～（7/13）

マッターホルンを望むゴルナーグラード展望台へ行き、そこからハイキングをしながら観光ガイドの説明を受けました。

ハイキングやマウンテンバイクのルートは、自分の体力などに応じて選べるよう、たくさんのルートが用意されています。QRコードで高山植物の説明が見られるようになっていたり、案内看板も多く設置されていたり、また足元には目印のマークが描かれていたりするなど、安心してハイキングを楽しめる環境ができていました。

～町民海外研修事業・ダヴォス～（7/14）

■国際会議場と多様なアクティビティを提供

ダヴォス会議で有名な国際会議場があるほか、多目的ホールや宿泊施設、レストラン、ショップなどが充実する都市であり、サンモリッツやツェルマットなどと比較しても建物や街並みがより近代的であると感じました。この会議場では、ダヴォス会議のほかにも大きな会議が開催されているため、年間の稼働率は約80%になるそうです。

冬のスキーやスノーボード、夏のハイキングやサイクリング、ラフティングなどの自然を楽しむアクティビティはもちろんですが、アイスホッケーなどのスポーツ施設や公園、子どもたちの遊べるレジャー施設などもあり、他の都市と比較して多種多様な目的の人が楽しめるリゾート地であると感じました。

～町民海外研修事業・ダヴォス～（7/14）

空気がきれいで水もおいしいダヴォスは、古くは結核の療養場所となっていたそうで、山の上にあるホテル「シャッツアルプ」も、もとは結核の療養施設として利用されていました。

建設から100年以上が経過していますが、スイートルームの備品やエレベーターなど、療養施設だった当時から使用されているものも残っており、長い歴史を感じる施設でした。

このホテルには植物園が併設されていますが、これは結核療養中の患者さんが部屋の中からでも自然を楽しんで気分転換してもらいたいとはじまったとのことでした。

ホテルに変わった現在でも5haある広大な敷地の中で約5,000種もの植物が楽しめ、スイス国花のエーデルワイスを見ることもできます。

また、この植物園は、スイスに26ある植物園で唯一の私立植物園とのことでした。

～町民海外研修事業・ダヴォス～（7/14）

レーティシュ鉄道は1889年から運行開始し、現在はサンモリッツやダヴォスなど、グラウビュンデン州の多くの都市をつないでいます。

サンモリッツ－ツェルマットを結ぶ「氷河特急」や、サンモリッツ－ティラノ（イタリア）を結ぶ「ベルニナ急行」もその一部で、休暇や観光目的などで年間約1,000万人、通勤・通学目的などで年間250万人が利用しています。

～町民海外研修事業まとめ～

■訪問都市について

スイスでは、多くの都市で建物の色や建築素材の制限があるため、各都市とも建物や街並みが統一したものとなっていました。

住宅や店舗、道路脇などでは、花壇でまちを彩る様子が各所で見られ、地域で景観づくりをしていると感じました。

また、サンモリッツは面積が広くなく、まちづくり自体もコンパクトになっているため、観光客と地域住民が非常に近い距離にあると感じました。

ただし、観光客に悪いイメージを持っている人はいないとのことで、その理由としては富裕層が多くマナーの悪い人が少ないこと、多くの人が観光業に携わるなど、何かしら観光の恩恵を受けていること、などが考えられます。

一方でツェルマットでは、地域住民は近隣のまちに居住しているケースも多く、地域住民と観光客の距離は遠いのだろうと感じました。町を歩く人たちも観光客と思われる人が多く、地域住民と思われる人はほとんど見られませんでした。

サンモリッツのバスは1時間に2～3本運行しており、バス待合所では、画面で各運行便の乗り口・行き先・出発までの時間などがわかるようになっていました。

▲バス待合所の表示

◀バス車内の表示

おわり